

学校点描

4日の大雪の日にPTA三役会を校長室で開催しました。夜の荒れた天候の中でも、会長、副会長さんが集まってくれました。

《K中学校》

NO.20 R3. 2. 9

担当：校長

1年の学年だよりには『自分に負けるな！』のタイトルで、2学年の学年だよりは『しっかり発信、じっくり選択！』のタイトルで、3学年の学年だよりは『公立一般入試の手続きが始まります』のタイトルでいずれも、入学試験一色の内容となっています。既に私立高校への進学を決めた生徒も出てきました。

12月に依頼しました学校評価のアンケートへのご協力ありがとうございました。改善すべき点や、今後ますます伸ばしてほしい点などを把握することができたように思います。特に、ゲームやSNSの使い方について、勉強の楽しさ面白さについては課題と捉えている保護者が多かったです。一方で、新型コロナへの対応や通わせたいと思える学校という点ではある程度の評価をいただきました。来年度の学校経営に反映させていきます。

眼下にある15の試練

2月5日（金）は公立高推薦・連携入試の日でした。校長室の窓から雪が降っている眼下を望むと、2人の女子生徒が、K高校連携入試に向けて、傘を差しながら一緒に歩いて受検会場に向かっていきます。背中では、不安な気持ちを十分に語っていました。

本校には、“中高連携特別支援教育支援員”という職名で M・C 先生がK高校とK中学校を曜日ごとに決めて両校に勤務してくれています。中学校のことも、高校の様子もよく知っている先生なので助かります。M先生から、入試の様子について聞きしました。マスクを忘れてしまったり、内ズックを忘れてたりしてしまった生徒がいて、そのとき、一緒に受検していた生徒が貸してくれたり、励ましてくれたりしていたことを話してくれました。

慣れない試験会場で、心細い中でも、必死に助け合っていたことが想像できます。

通勤途中、車の中で聞いていたラジオ番組がこんな話をしていました。出来事は埼玉県のある中学校の3年生のクラスのことでした。

推薦入試を受けるA子さんにとって、いよいよ明日が受検となりました。不吉な知らせは、この時からあったのでしょうか、美術の時間、内ズックにたつぷりと絵の具を落としてしまいました。ズックの紐も、切れかかっていたので、どうせ家に帰って、明日の受検のために整えようと思っていた矢先です。授業中であつたのですが、担任の先生が入室ってきて、A子さんをいつもかわいがっていた新潟のおじいちゃんが倒れたという連絡をしました。A子さんは、気もそぞろに、急いで家に帰って、両親といっしょに新潟に向かったのです。その夜、A子さんから担任の先生に電話が来ました。新潟にいるA子さんは、少々パニックになっているようです。

「先生、わたし、明日の受検にまっすぐ新潟から向かおうと思っていたのですが、内ズックを忘れてしまいました。どうしたらいいでしょう・・・。」

おじいちゃんの不幸とも重なり、A子さんは、もうどうしたらよいのか、電話口には動揺の声が響きます。「ズックぐらい忘れても大丈夫だよ。どうしてもというのなら、明日の朝、受検開始まで届けるから」と、担任の先生は励まします。「先生、私のズック、汚れたままなのです。紐も切れかかっているし、一生に一度の受験なのに・・・。」「ズックがなくても、受検校の先生に言えばスリッパ借りられるから。」と、先生は、A子さんを落ち着けようと一生懸命でした。



次の日。できる限り、平静に受検させてあげようと、先生は、朝、真っ先に 教室に向かいました。すると、教室のストーブの前に、一足の真っ白な内ズックが置かれているのです。

「これ、どうしたの？」担任の先生は、近くにいた、女子生徒に尋ねます。「先生、A子ちゃん今日、入試でしょ。昨日、帰る時、ズックが残っていたから、Yちゃんと 右、左分担して、家で洗ってきてあげたの。今、ズック乾かしてるところ」

「ズックの紐は？」と、先生。「紐はね、もう私立高校で合格したRちゃんが、貸してあげるって言っていたから、借りたよ。縁起いいでしょ！」

その後、先生は、急いで真っ白なズックを抱えて、受検会場に向かいました。

A子さんの受検の影には、こんな友人たちの心が重なり合っていたんだと、ラジオのDJが感心しながら話していました。

入試直前の心細さの中で励まし合っていた二人の生徒、ラジオで紹介された埼玉の受験生のA子さんの話、この2つの話は、別の話だけれど何か共通しているように感じてしまいます。

たよりを書き終え、校長室の窓から眼下を望めば、足取り軽く受検会場からもどってくる生徒がいました。

きりとり

ご意見・ご感想をお願いします。

メールでご意見をいただいても構いません。 Shinyatk1616n@yahoo.co.jp